

# 研究成果報告書

2020 年 8 月 31 日

## 1. 所属・職・氏名 等

国際教育学科・講師・山辺恵理子

## 2. 研究課題（テーマ）名

学生間の国際交流を深める仕掛けとしての哲学対話の可能性

## 3. 研究期間

2019 年 4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日

## 4. 利用した研究費の種類及び金額

学術研究費交付金 250,000 円

若手教員研究促進交付金 300,000 円

外部資金獲得支援交付金 100,000 円

## 5. 研究の概要

国際教育学科では 2018 年度に交換留学制度を始動したが、後期に本学で学んでいる学科学生と留学生の学術的な国際交流を深めることが一つの課題として浮かび上がっている。すなわち、日常的な会話や交流は少なからず行うものの、協働しながら深く学問に向き合うような活動が、通常授業の中では発生しにくいという課題である。この課題の背景には、留学生と学科学生が混ざって受講しなければならないという仕組みになっている授業が多くないことや、留学生と学科学生の年齢差などがある。

このことを踏まえ、国際教育学科の学生と北欧の大学からの留学生らとの間の学術的な国際交流の機会を設けることを目的に、任意参加型の哲学対話のワークショップを開発・実施した。

## 6. 研究成果等

まず、10 月には、世界の貧困と経済格差について大学生の視点で描くドキュメンタリー映画「1 日 1 ドル生活」を上映し、上映会後に哲学対話を実施。哲学対話を実施している東桂小学校の教諭 2 名も参加した。11 月には、「日本における『うち』と『よそ』」をテーマに日本文化について考察する哲学対話を実施し、最後の 12 月には、テーマを自由とし、参加者の問題関心に沿って哲学対話を実施した（結果的に、日本の子ども観や教育観が主なテーマとなった）。

また、哲学対話のワークショップを実施する前には、独自のツールや、日本語および英語の教材の開発を行い、英語力や日本文化の理解度に差のある参加者らが対等に哲学対話に

参加できる環境の整備を行った。ワークショップ後のアンケートでは、ツールに関する建設的な批判はあれど、ワークショップ自体に対しては高い満足度が見られた。

## 7. 研究の実績（論文・発表 等）

1. Yamabe, E. (2019). Rethinking the Ethical Validity of Restorative Justice in Education. Presentation at the annual conference of the World Educational Research Association, Gakushuin University.
2. 荒木寿友・藤本文 編著、荒木紀幸、西野真由美、藤原孝章、山岡雅博、山辺恵理子、武藤世良、小田亮、川本哲也、林創、岡田有司、藤井基貴、上田仁紀、久保田笑理、堀田泰永、竹内和雄、木原一彰、幸田隆、藤原由香里、星美由紀、鈴木憲、鈴木賢一、松尾廣文、高野阿草、六車加代『道徳教育はこうすれば〈もっと〉おもしろい: 未来を拓く教育学と心理学のコラボレーション』北大路書房、2019年12月
3. 中田正弘編著、大越さとみ、坂田哲人、村井尚子、矢野博之、山辺恵理子、渡辺秀貴『ポジティブでリフレクティブな子どもを育てる学級づくり: 「学びに向かう力」を育てるこれからの学級づくり入門』学事出版、2020年6月
4. 中田正弘編著、稲垣桃子、酒井順平、坂田哲人、村井尚子、矢野博之、山辺恵理子、山本剛己『ポジティブでリフレクティブな子どもを育てる授業づくり: 「学びに向かう力」を発揮し、協働的に学ぶエデュスクラム』学事出版、2020年9月